ミニシンポジウム記録 エリアケイパビリティーアプローチによる漁村開発

4. タイ国ラヨーン沿岸の小規模漁業の
多様性と重要性

江幡恵吾

鹿児島大学水産学部

4. Diversity and importance of small-scale fisheries
in Rayong, Thailand
KEIGO EBATA*Faculty of Fisheries, Kagoshima University, Shimoarata,
Kagoshima 890-0056, Japan*

タイ国ラヨーン沿岸では、カニ刺網、魚かご、イカかご、釣りなどの小規模漁業が盛んに行われ、地元の重要な産業のひとつになっている。これらの漁業では、通常、漁業者が1~2人で木造船（長さ6.5-8.0 m、ディーゼルエンジン約18馬力）に乗船して、日帰りで操業が行われている。

タイ気象局によると、タイ国の季節はだまかに3つの時期に分けられる。5月中旬から10月中旬までは雨季または南西モンスーン期と呼ばれ、インド洋からの湿った暖かい風が吹き続けるために雨の多い日が続く。10月中旬から2月中旬までは、冬季または北東モンスーン期と呼ばれ、中国大陸を覆う高気圧による影響で、北東からの冷たい乾燥した風が吹き付ける。2月中旬から5月中旬までは、北東モンスーン期から南西モンスーン期に移行する期間で、季節風による影響が少なく海上は穏やかな状態が続く、一年の中で最も暑い時期となる。ラヨーン沿岸は南側に面して開けているため、南西モンスーン期に季節風による影響を最も受けて、海上では波の高い日が続く。

本研究では、ラヨーン沿岸における小規模漁業の季節変化を明らかにすることを目的として、2012年11月から調査を開始した。調査対象として、ラヨーン沿岸における主要な漁業種であるカニ刺網、魚かご、イカかご、釣り漁業の4つを選んだ。調査では、それらの漁業に従事する合計13人の漁業者に操業日誌を配布し、毎日の操業についての記録を依頼した。操業日誌の記入項目は、日付、魚種別水揚げ量・水揚げ金額、出港・帰港時刻、燃油購入量・金額であり、出漁しなかった時には備考欄にその理由を記入してもらうようにした。調査対象の漁業者の漁船には、小型のGPS（GT-600）を取り付けて、出港してから帰港するまでの位置を3分間隔で記録し、漁船の移動軌跡と操業日誌の記録から操業位置を推定した。

カニ刺網漁業では、長さ約450 m、目合い100 mm、網糸直径0.3 mmの刺網が使用され、周年を通じてタイ

ワンガザミ *Portunus pelagicus* が主な水揚げ対象になっている。季節風の影響を強く受ける南西モンスーン期には、漁船の係留位置や刺網の設置場所を波浪の影響が少ないところに移動させて操業を続ける漁業者と、操業を中止して果樹園などを営む漁業者に分けられた。月別操業日数および月別水揚げ量は、南西モンスーン期の初め頃が最も少なく、南西モンスーン期の終わりから北東モンスーン期にかけて増加する傾向が見られた。

魚かご漁業では、木製の枠（縦200 cm、幅100 cm、高さ50 cm）で作られたかごが使用され、上面と底面はポリエチレン製網地で、側面と入口部分はワイヤー製網地で覆われている。かごの設置場所はサンゴ礁や人工魚礁の周辺で、周年を通じて大きな変化はなく、浸漬日数は約1週間である。かごの入口は側面に1つで、海底に設置される時には入口が潮流の方向と平行になるようにする。水揚げされる主な魚種は約10種類であり、水揚げ量の約半数以上をアイゴ類 *Siganus javus*, *Siganus canaliculatus* が占めていて、月別操業日数および月別水揚げ量は南西モンスーン期に増加する傾向が見られた。

イカかご漁業では、長さ100 cm、幅95 cm、高さ80 cmのかごが使用され、かごとおもりをロープでつなぐことによって、かごを海底から浮かせた状態で、側面に1個ある入口部分が上方を向くように設置される。主な水揚げ魚種はアオリイカ *Sepioteuthis lessoniana* とコウイカ *Sepia aculeate* であり、アオリイカが全体の95%以上を占めている。かごを設置する海域は、南西モンスーン期には沿岸近くであるが、北東モンスーン期、季節風による影響が少ない時期になるにつれて沖合へと拡大して使用するかごの個数も増加する。同時に、月別操業日数および月別水揚げ量も増加する傾向が見られ、2月から4月が最盛期となっている。

曳縄や一本釣り漁業では、操業を行う海域は周年を通じてほとんど変化しないが、月別操業日数および月別水揚げ量は南西モンスーン期で減少する傾向が見られた。水揚げ魚種は、2~4月ではアオリイカ、北東モンスーン期ではサワラ類がほとんどを占めており、季節によって水揚げ魚種が変化する傾向が見られた。

ラヨーン沿岸の小規模漁業では、季節風による影響を受け、特に南西モンスーン期にはカニ刺網、イカかご、釣り漁業の操業日数や水揚げ量が減少する一方で、魚かご漁業ではこの時期に水揚げ量が増加し、他の時期と比べて水揚げ種も変化していた。このようにラヨーン沿岸の小規模漁業では、操業が行われる海域や水揚げ量・魚種などの季節変化は各漁業種によって異なり、各漁業者らは気候の変化とうまく調和しながら操業を行っていると考えられた。